

# 鶴岡ロータリークラブ会報

## 827

1975-10-28 No.18

鶴岡ロータリークラブ 創立 昭34.6.9 承認 昭34.6.27 353地区  
例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや  
例会日 毎週火曜日 午後 12.30～1.30  
事務局 鶴岡市馬場町 鶴岡商工会議所内 電 0235 (22) 5775  
会長 佐藤 忠 幹事 吉野 勲

### ◆ 点 鐘

◆ ロータリーソング (手に手をつないで)

◆ ビジター紹介

### ◆ 会 長

- ◆ 去る26日 白鷹RC10周年記念式に参加報告 (参加者 会長、内山君、石川君)
- ◆ スポーツ大会等 (後述)
- ◆ 鶴工インターアクトクラブより礼状が来た

### ◆ 幹事報告

変更について

- ◆ 八幡RC 11月1日を11月2日に 12時30分より 升田公民館 1,500円
- ◆ 山形西RC 11月10日 17時30分より 千歳館
- ◆ 山形南RC 11月4日を11月3日に 18時より 山交ビル7階
- ◆ 会報到着 八戸、能代、鹿児島西
- ◆ チャーターナイト案内 串本RC 51年2月22日 串本 ホテル 浦島  
登録料 会員 10,000円 家族 8,000円

◆ 会員スピーチ 内山喜一君 (後述)

◆ 委員会報告 (後述)

◆ 出席報告

◆ 点 鐘

TO DIGNIFY THE HUMAN BEING 人間に威信を!

## 道場訓再考

内山喜一

今月の初め、4日、5日と2日間に亘りまして山形市民会館で開催されました、353地区の年次大会における、戸川幸夫先生の「忘れ得ぬ人々」と題する特別講演は、誠に深い感銘をもって拝聴致しました。

その講演のなかで特に心を打たれたお話、その要点を申し上げまして、それに関連すると思いますが、私のお話を引続きさせていただきます。

戸川先生の恩師であります作家の長谷川伸先生が亡くなられる3日程前だそうです。たまたまお見舞に行かれた戸川先生に遺された言葉“人はその生涯に於て、生きていく意義を何等かのかたちで、この世に残すべきである”と言う意味のことを申されました。

その言葉に関連してAと言う死刑囚のお話がありました。そのA死刑囚は、ある事情で牧場主である2名の女性を殺害して仕舞い、当時北海道の刑務所に服役して居りました。その服役中に、点字の翻訳を習得されましたたまたま戸川先生作の「高安犬物語」の点字翻訳が奇縁となりまして、文通の交際が始まりました。その文通を通して戸川先生は、先程の恩師の言葉の意義なぞ再々書き送られたそうであります。

A死刑囚はだんだんと悟るところがあったのでしょ、それ以後は点字の翻訳に一層力が籠りまして、僅かの日数のうちに死刑執行の時刻、死の間際まで続けられた訳本が、合計280冊余りとなりました。その間、先生は他の多くの友人、知人に呼びかけまして、A死刑囚のこの善行、改悛の明白さなどを説いて、助命嘆願の運動を起されましたが、遂にその甲斐もなく、この280冊余りの訳本が、A死刑囚のこの世に残す唯一のものとなりまして、間もなく刑の執行となったそうであります。

次に戸川先生の郷里、佐賀の葉隠思想の死生観につき先生ご自身の体験のお話してあります

先生のお話に入る前に“葉隠”と言う名前と思想について参考までに次のことを御紹介申し上げます。

『奈良本辰也訳編の“葉隠”によりますと、“葉隠という名前は、どういうわけで選ばれたのか明らかではない、西行法師の「山家集」恋の部に

はがくれにちり止まれる花のみぞ

しのびし人にあふこちして

と詠まれた歌から出たものだろうと、説く人もある”と、ある一説としてこのように言われて居り、尚、葉隠の思想の項に次の一文があります。

“葉隠この本の素晴らしきは、人間の生き方を教えているということだ。それは、宗教でもなければ、道徳でもない、それを超えたところにある、人間の美学だ。太平な時代が始まって、人々は秩序のなかに安住し、その魂の激濁さを忘れてしまうような時期だった。誰も彼も、その社会が作り出す、類型化のなかで、判で押したような人格に飼いならされようとしていた。それに痛烈な批評を加えて出現した人学の美学なのである。この美学は現在において、人間が主体性をとりもどすためには、最も必要なもののように思われる”

と以上のように葉隠思想の一部を解説して居ります。何か、この解説のなかに現代の社会、世相に対し指摘されている部分があるやに思われますので一寸紹介させていただきます。

話を戸川先生の体験談に戻しまして戦時中のこと、先生には毎日新聞の海軍報道班員として南方派遣を命ぜられました。折から同乗した飛行機の操縦士の操縦ミスから海中に墜落すると言う事故にあわれました。急に高度が下がり危いと感じた時、自然に機体の壁際に身を寄せていたそうで、それまでは覚えていたが、その後、海水の冷たさに気付いた時、破損した片方の翼に、つかまって居た自分に気付き、初めてあゝ生きていたと思ったそうで、突然に来る死とは、ある一点を境として、苦痛は伴わぬもののようにだと、その体験を語られました。計らずも墜落した場所が台湾の近くで幸い間もなく救助されましたが、その台湾に於て始めて戦況の重大さ、その真相を知りまして生死二者択一を迫られる体験を再びなされることとなりました。と申しますのは、当時はご承知の通り第一線の情報はすべて軍の検閲を経て報道されて居りま

した。従って事実と相違した戦況や情報を私共は知らされて敗戦の日まで、勝利を信じて参りました事は、既にご承知の通りであります。

先生は台湾に於いて、その不利な戦況をまのあたりに見まして、この事実を何んとかして内地の人々に知らせるべきと思って居ります時たまたま誠に好都合にも、司令長官が、これから出撃する特攻隊員へ最後の訓辞を与えると言う機会に恵まれました。早速その訓辞を聞いたそのまゝ、毎日新聞本社へ秘かに生電で送信したのであります。毎日新聞本社に於ては当然検閲済みの記事として、それをそのまゝ報道したのは勿論のことですが、直に軍の知るところとなりまして、間もなく台湾の司令部から、出頭命令が参りました。出頭すれば当時のこととて、死のフィリッピン送りは必定です。と申しますのは、その頃既にフィリッピンの大半は敵の手中にありまして、転進に遅れた技術兵員の救出作戦が、夜間秘かに行われて居りその救出用飛行機の搭乗員として、先生のように軍の規律に違反した者を、罰として当てられて居りました。尚、この救出作戦は成功率の極めて少ないものでフィリッピン用員に指名されると言うことは正に死を意味するものであります。

同僚の多くは、暫くの間高砂族の部落にでも身を隠してはと、頻りに勧められたそうですが、先生は、如何に逃げ隠れてもとても憲兵の目を逃れることは到底考えられぬ事と断念し、又生か死か、二者択一を迫られた時は、死を選ぶと言う。葉隠の伝統精神に従いまして、敢然として出頭されました。計らずもそれから一週間後、司令部一帯が大空襲に見舞われまして、空襲の翌日焼跡に唯一人立って居られた司令長官と奇しくも逢うこととなりまして、長官からその場で帰国を許されると言う、誠に感動あふれるお話でございました。

私も曾って日支事変の折、従軍の経験があります。あの厳しい軍の規律を知る者の一人として、先生のこの体験談に身の引き締る思いが致しました。

以上の先生のお話しから、私もある一連のことを想起致しましたので引き続きそのお話しをさせて頂く次第でございます。

お話しを題を仮に「道場訓再考」と致しましょう。実は12、3年前になろうかと思えます。“全国師友会”の例会、現在もあります。当鶴岡に於ては、松ヶ丘の東北農家研修所々長の菅原兵治先生が支部長で、その例会の席上で発表させて頂いたものでした。その頃、私共の取引先に新学社と言う教育書専門の出版社がありまして、その出版社の機関紙、新聞紙の四分の一程のささやかなものですが、その社説に掲載されて居りましたが、この道場訓でございます。その道場訓のありますのは、京都伏見のある剣道場のもので

曰ク

- 一、国のためなら血を流せ
- 一、人のためなら涙を流せ
- 一、自分のためなら汗を流せ

以上3カ条であります。

第1条の血を流せは現代に於ては少々抵抗があろうかと思いますが、言葉を変えて、国を愛する、自分の生れた国、故郷を愛するとしたなら、決して不自然でなくご理解を頂ける事と存じます。第2、第3条これは誠に尊い言葉であり心であると思えます。

若しこうした心、精神をもちまして特に若い人々を教育し、育てて来たとしたならば近頃のように、日本人の精神的危機なぞ叫ばれずともよかったのではと思われれます。近年特に若い人々の服装や服飾には目を覆うものがあります。特に男子の長髪は、既に不自然ではなくなりました。衣服に至っては総じて青年男女が正反対の色彩と服装を好んで着用し、男女の判別さえ難しい近頃です。このような風潮、これを案ずるのは思い過しとは言えぬと存じます。青年男女のこうした感覚の程は、専門家に任せると致しまして、この異常とも云える世相を心から案ずるものであります。

少なくとも、せめて

- 自身の国を愛する心情
- 人のために涙を流す心根
- 自分のために汗を流す努力

本来日本人の精神構造は、国を愛し、他への思いやり、自からへの精進、こうした思想に根ざしたものであったと思います。せめてこれからの教育に、以上のような、心、精神的なものを多少なりとも、組入れる必要があろうかと存じます。

何れ折をみまして、京都伏見へ参りこの道場訓の由来など、尋ねて参りたいと念願して居ります。

話を前に戻しまして、戸川先生の“生か死か” “生きている実証を”と言う、特別講演から以上思い出すまま述べさせて頂きました。

大変口はばったいこと多々あったと存じますがお許しいただき度うございます。ではこれにて終らせて頂きます。有難う御座いました。  
10月28日

委員会報告

※姉妹クラブ 台中港扶論社会報から(会報826) …… 国際親睦委員長 中江 亮 君

※スポーツ等報告(入賞者よりスマイル) …… 親睦活動 上林 一郎 君

50.10.22 …… 5クラブ・2会議所親睦スポーツ大会 バレー

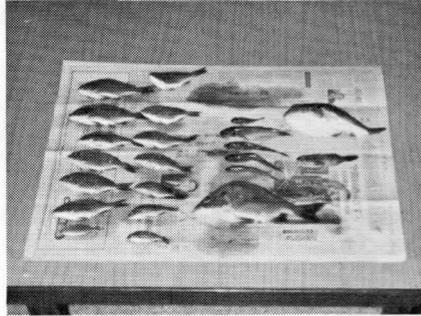
鶴岡西と対戦 2:0で惜敗

50.10.25 …… 釣大会 審査結果 … 優勝 板垣君、準優勝 小松君

1位 早坂君、次点 黒谷君

…… ゴルフ大会 …………… 優勝 佐々木君、準優勝 笹原君

1位 藪田君、以下 会長、横山君、五十嵐君



出席報告

本日の出席	会 員 数 71名 出 席 数 55名 出 席 率 78.87%	欠席者	阿部(襄)君、安藤君、森田君、五十嵐(伊)君、市川君、玉城君、斎藤(信)君、今野君、三浦君、佐藤(順)君、佐々木君、菅原(啓)君、高橋(正)君、佐藤(宇)君、富樫君
前回の出席	前回出席率 70.42% 修正出席数 61名 確定出席率 85.92%	メークアップ	藪田君—浜松RC 風間君—山形南RC 板垣君、嶺岸君、中野(重)君、小野寺君、佐藤(衛)君、新穂君、横山君、清水君、山本君—鶴岡西—RC
ビジター	今野義介君、佐藤昭吉君—温海RC 佐藤成生君、阿宗健一郎、半田勇三郎君、菅原年雄君、加藤広君、矢尾板章君—鶴岡西RC		